

ぷらららぼ が育てる つながりの輪

～地域共生社会の実現に向けて～

少子高齢化やライフスタイルの多様化などを背景に、地域活動を取り巻く環境は大きく変化しています。活動の担い手となる多様な主体が業種や組織を越えてつながり、新しい協働を生み出す仕組み「ぷららぼ」を紹介します。

☎ 108747

地域共生社会推進室 / Tel.674-7162

市社会福祉協議会 / Tel.674-7497

地域が元気であり続けるために

私たちが暮らす地域の中には、介護や育児での困り事や貧困、障がい、不登校などによる課題を複合的に抱えた人がいます。

その人たちが孤立することのないよう、地域では住民組織や社会福祉法人、NPO、ボランティアなどがさまざまな活動をしています。そして、そういった活動に興味を持ち、CSR（社会貢献活動）の一環として協力したいと考える企業もあります。

それぞれが独自の強みを持つ一方で、近年では活動の担い手側自身も課題（右図）を抱え、十分に力が発揮できない状況もあります。地域が元気であり続けるためには、活動の担い手同士が互いの強みを生かし、手を取り合える環境づくりが重要です。

地域 (住民組織など)

- ・地域活動に若い人が集まらない
- ・活動の後継者不足

NPOや ボランティア団体

- ・活動内容が地域に広がらない
- ・活動資金が集まらない

活動の担い手が抱えている課題

企業

- ・地域や市民と交流する機会が少ない
- ・CSRに悩んでいる

高槻発のつながりの場「ぷらららぼ」

活動分野や属性を越えた出会い

ぷららぼは、活動の担い手同士をつなぎ、支え合える環境をつくることを目的に、高槻独自の取り組みとして令和5年に誕生。市と市社会福祉協議会が共同で推進しています。

コンセプトは「新たな出会いが生まれる多様性のある交流の場の研究」。活動分野の異なる多種多様な人がつながることで、新しい協働を生み出し、活動が広がっていく循環型のプラットフォームを目指しています。

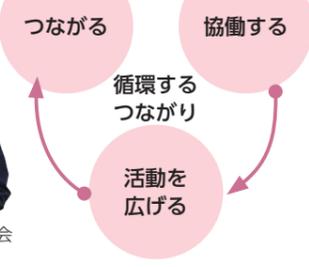


地域共生社会推進室
水野良弘さん



市社会福祉協議会
木村幸嗣さん

私たちが
紹介します



ぷらららぼカフェ



今までになかった協働が生まれる場所

ぷららぼでは、3か月に一度、交流会「ぷららぼカフェ」を開催しています。参加者は、カフェにいるような気楽な雰囲気の中で、活動への思いや悩みを語り合います。これまでに8回開催し、約100人が参加。ぷららぼカフェでの出会いをきっかけにさまざまな協働が誕生しています。



こんな人が参加しています

地区福祉委員会などの地域住民による組織、障がい者の就労支援をする事業所、子どもの居場所をつくる団体、社会貢献に関心を持つ企業などから「地域のために活動したい」という思いを持った人が参加。社会福祉協議会職員も参加し、つながりをサポートしています。



イメージ

①参加者の悩み

活動を知ってもらうために、地域でイベントをやりたいな



地域貢献ってどうやって始めたらいいのかな



②ぷららぼカフェで出会う

団体：不登校の小学生がいる家庭のために支援活動をしています
企業：当社でも子どもたちのために何かしたいと思っているんです



団体：イベントに利用できる屋外の場所を探しているんです
企業：それなら、当社の駐車場を使ってください。親子で参加できる工場見学もありませんか？

③両者の思いがマッチング



互いにとって
メリットのある
出会いだね

企業は…
地域との関わりが生まれ、企業を知ってもらう機会にもなり、社員の意欲が高まった

団体は…
協力してくれるパートナーができて、活動が広がった

参加者の声



ビックカメラ
高槻阪急スクエア店
店長
酒井陽介さん



市民公益活動
サポートセンター
センター長
金崎恵美子さん

カフェをきっかけに、地域のお祭りへの協力や福祉団体などの協働が始まりました。地域に貢献でき、さらに店舗の知名度向上や客層の広がりも実感しています

和やかな雰囲気の中、毎回熱意ある人との出会いがあります。何度も参加することで、つながりが自然と広がり、新しい協働も生まれています

ぶららぼカフェで
マッチング

ぞくぞく誕生

つながる輪

ぶららぼカフェでのつながりを
きっかけに生まれた協働の事例
を紹介します



Case1 福祉×企業での新たな協働



トヨタモビリティ新大阪
南高槻店 與那嶺鈴さん

ぶららぼを一言で
企業の強みを生かした
地域貢献の形を発見

明星福祉会
理事長 今井司さん

ぶららぼを一言で
参加者の熱意があって
新しい発想が生まれる

互いの強みが生きるちょうどいい協働

2年前、與那嶺さんは「地域の顧客に選ばれ支持される店舗づくり」を目標に「地域とのつながり方」のアイデアを求めて、ぶららぼカフェに参加。一方、障がい福祉事業所の運営や自立支援などを行っている今井さんは、企業や団体との新しいつながりを期待して参加しました。交流の中でトヨタモビリティ新大阪の

お客さんに、障がい福祉事業の取り組みを知ってもらう機会となるような新しい協働を考えました。



誕生した協働の取り組み

後日、検討を経て、レディースデーの来店客に提供するお菓子として明星福祉会が製造販売する自主製品「はにたんクッキー」を採用することになりました。

協働を振り返って



はにたんクッキーはお客様にも好評で、この協働を紹介する会話の中では、お客様との距離がぐっと近くなります。ぶららぼは、CSRを始めたい企業にとって、最初の一步を踏み出せるとてもいい出会いの場です。

販路拡大だけでなく、障がい福祉の現場に、良い影響を与えてくれました。事業所の利用者様にとっては「誰もが知る大手ディーラーに自分が作った商品が選ばれる喜び」に、職員にとっては他業界とのやりとりの経験がスキルアップにつながりました。



トヨタモビリティ新大阪×
三島地域若者サポートステーション



職場見学会を実施し、働くことに一歩踏み出しにくい人が直接、就労の話を聞く機会に

明星福祉会×ビックカメラ
ビックカメラ高槻阪急スクエア店から障がい者雇用について相談を受けた同会。地域の障がい福祉事業所につなぎ、2人の障がい者雇用が実現した

ほかにも
こんな協働が誕生

Case2 若い世代と共に作るお祭り



Canvas
理事長 ディエゴ アロンソさん

ぶららぼを一言で
NPO法人ならではの
悩みを気軽に相談
できる

テツメグ
代表理事 若林宏美さん

ぶららぼを一言で
つながりが循環し、
協働事例が集まる場

北大冠地区福祉委員会
委員長 森下和夫さん

ぶららぼを一言で
支援活動に取り組む
若い世代とつながる

お祭りを若い世代の活躍の場に

3年前、北大冠地区福祉委員会の森下さんは「地域のつながりを生む新しい行事を作ろう」と「きたかん冬まつり」を立ち上げました。若い世代の活躍の場となるような、参加者の自主性に任せた祭りになりたいと考えていた森下さん。祭りを一緒に盛り上げてくれる人との出会いを求めて、ぶららぼカフェに参加しまし

た。そこで、外国にルーツのある子どもたちの居場所づくりに関する支援活動に取り組むディエゴさんと、森下さんと同じ地域で女性や学生のためのキャリア教育などの支援活動を行っている若林さんに出会い、意気投合したことをきっかけに、協働が始まりました。

誕生した協働の取り組み



①お菓子づくりで異文化交流
ディエゴさんが、故郷のペルーで親しまれているお菓子「マサモア」づくり体験をお祭りで開催。約30人の子どもたちが参加し、異文化交流を楽しみました。



②広報活動のアドバイス
イベント運営や広報物の制作も行っている若林さんが経験を生かし、チラシを配るタイミングなど、広報活動をアドバイス。

協働を振り返って



お祭りを企画した当時は、地区福祉委員会役員の高齢化が進む中、人手不足や世代間交流の難しさを感じていました。ぶららぼに参加するといろんな人の話を聞いて、一緒に盛り上げてくれる仲間が見つかります。お祭りを若い人の活躍の場にする事で、若い世代が意欲的に参加してくれるようになりました。今後はこのつながりを地区福祉委員会の他の活動にも広げていきたいです。



NPOを立ち上げたばかりで団体のことをまずは知ってもらいたかったので、地域の行事に声を掛けてもらいうれしかったです。お菓子づくり体験を通して、子どもたちに外国の文化も伝えることができました。



ぶららぼで森下さんとお会い、同じ地域の人と知り、一緒に活動したいと思いました。子育て現役世代とシニア世代のそれぞれの価値観や意見を擦り合わせるような役割ができればと思って参加しています。

もっと身近に ぷららぼのこれから

地域版ぷららぼカフェが始動

ぷららぼカフェで培った参加者のネットワークを生かしながら、より地域に根差した協働が生まれる風土を育てていくため、昨年10月から「地域版ぷららぼカフェ」が始動しています。現在は、第六中学校区の1カ所ですが、今後は中学校区を目安に、市内各地域に展開していく予定です。

Q 地域版はどんな特徴があるの

地域版ぷららぼカフェでは、地域の課題やニーズに応じた協働の実現を目的としています。これまでの参加者だけではなく、各地域の住民や自治会、学校職員、商店など、誰でも気軽に参加できます。興味のある人はぜひ参加してください。



ぷららぼカフェに興味のある人は、
市社会福祉協議会
☎674-7497まで
お問い合わせください



ぷららぼで目指す地域づくり

ぷららぼが目指しているのは、人と人、人とさまざまな活動がつながり、輪となって広がる地域づくりです。

こうしたつながりの輪は、地域で暮らす人々や活動する団体などの間で、自然に支え合う関係性を育てていきます。

ぷららぼで実現したい 地域の未来像

- ・一人一人の意欲が尊重され、誰もが自分らしく活躍できる
- ・新たな出会いが協働につながり、強みを生かして地域課題に取り組める
- ・自発的な活動が循環し、思いが未来へとつながっていく

地域共生社会の実現に向けて

困り事を抱えた人が孤立せず、その困り事を必要な支援につなげていくため、市では「重層的支援体制整備事業」に取り組んでいて、「ぷららぼ」はその一つです。

今後も市は「ぷららぼ」を通じて、地域のつながりや協働を育む「地域づくり」を進めていきます。また同時に、さまざまな困り事を抱える人に寄り添い、課題を解決するため、相談支援機関の連携強化にもより一層努めていきます。地域づくりの推進と相談支援の充実を重ね合わせ、誰もが役割や生きがいを持ち、地域の中で安心して暮らせる地域共生社会の実現を目指していきます。

